

# 令和5年度 港区政策評価シート

## 1 政策名・所管部門

政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める
所管部	環境リサイクル支援部		関係部

## 2 政策のめざす方向性

区民はごみを出さない生活スタイルのもと、正しい分別ルールを徹底し、事業者は自らが、社会的責任に基づきごみの減量や資源化へ取り組みます。区は、地域や排出者の特性に応じた質の高い収集サービスを展開するとともに、台風等の荒天時や感染症の拡大時などいかなる状況においても、区民生活を支える廃棄物処理を実践します。こうした取組をとおして、清潔で快適な生活環境を保全することにより、環境にやさしい持続可能な循環型社会を実現します。

SDGsとの関係



## 3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
34.2%	36.1%	37.0%	41.0%	B	

これまでの取組と成果

資源の拠点回収やピックアップ回収の事業拡大を行いました。資源回収量は前年とほぼ横ばいです。事業系ごみの発生抑制や適正処理については、オンラインによる廃棄物管理責任者講習会を実施しました。コロナ禍の影響により事業系ごみ量が減少しています。新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、資源回収・ごみ収集を休止することなく実施しました。

課題と今後の方向性

※未達成の場合は原因分析を含む

資源回収量が伸び悩んでいることから資源やごみの適正排出や3Rの啓発を強化します。また、拠点回収やピックアップ回収では回収量に限りがあるため、集積所における新たな資源品目の回収を検討します。今後は事業活動が活発になり持込ごみ量が増加する可能性があることから、一層の啓発強化・指導に取り組みます。また、感染症対策を十分に行い、ライフラインである清掃事業を適切に実施するための体制整備を継続します。

## 4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	区民の参画と協働による3Rの推進	資源回収量	B
②	事業系廃棄物の発生抑制と資源循環の促進	持込ごみ量(事業者などが清掃工場等の処理施設に直接持ち込むごみ量)	A
③	安全・安心・効率的な廃棄物処理の実践	区収集ごみ量(管路ごみ含む。)	E
④			
⑤			
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	4,397,885	4,163,067	4,001,714
流用・補正	-31,085	-32,522	-
決算額	4,280,078	4,035,669	-
執行率	98.01%	97.70%	-

## 6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など</li> </ul>	<p>コロナ禍により、企業における事業活動が縮小されたことから事業系ごみの持込量が減少していましたが、経済活動の進展により、増加に転じていく可能性があります。</p> <p>プラスチック資源循環促進法が令和4年4月1日から施行され、プラスチックの資源循環が加速していく状況にあります。</p>
<p>区民ニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民意識調査</li> <li>・区民から寄せられた意見など</li> </ul>	<p>環境問題への関心についての区民アンケートでは、廃棄物の発生量増加（食品ロスを含む）が高く、資源・ごみに関する区民の取組では、「資源とごみをきちんと分別する」、「使い捨てプラスチックの代替となるマイバック、マイボトルを利用する」が多く、近年、廃棄物の発生抑制やリサイクルに対する区民意識が高まっていると言えます。</p>

## 7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回収量については、新聞や雑誌等の古紙が減少していること、区が収集する可燃ごみや不燃ごみに再生利用が可能な紙類やプラスチック類が混入している状況であり、予定した成果が得られませんでした。</li> <li>・事業系ごみ排出量については、持込ごみ量が大きく減少しています。</li> <li>・区収集ごみ量については、減少傾向にはあるものの目標値に至ることは困難な状況です。一方で台風等の荒天時や感染症の拡大時の廃棄物処理の実践について、コロナ禍において、職員の中で感染者が出て一時は一部業務の休止や縮小があったものの清掃事業の根幹となる収集作業を止めることなく実施しました。</li> </ul>
<p>達成状況の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の有効性が高かった点</li> <li>・施策の有効性が低かった点</li> <li>・外部要因の影響を受けた点など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策「区民の参画と協働による3Rの推進」について、新型コロナウイルス感染症による社会活動の縮小やデジタル化に伴う雑誌（古紙）の需要低下などの社会的要因も影響し、予定した成果は得られませんでした。</li> <li>・施策「事業系廃棄物の発生抑制と資源循環の促進」について、新型コロナウイルス感染症の影響によるテレワークの推進等により事業系ごみの持込量が減少しています。</li> <li>・施策「安全・安心・効率的な廃棄物処理の実践」について、大規模集合住宅の建設が続く等の外的要因により、区収集ごみ量の減少が目標量に達しない見込みです。</li> </ul>
<p>課題と今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回収については、プラスチックの適正分別に関する啓発を継続します。また、資源の拠点回収・ピックアップ回収の拠点や品目を増やしましたが、回収量に限りがあることから、新たな資源品目の集積所回収についても検討します。</li> <li>・事業者に対する施策として、ごみ減量アドバイザーを同行した立入検査の実施、廃棄物管理責任者講習受講の働きかけのほか、効果的な取組について検討します。</li> <li>・令和4年度に実施したごみ排出実態調査を踏まえ、可燃ごみや不燃ごみに混入する資源が適切に排出されるよう区民の分別意識の更なる向上を図ります。</li> </ul>

## 8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>C：政策目的を達成するために改善が必要である。</p>
<p>政策の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区収集ごみ量の成果指標は、人口増もある中で評価に適した指標となっていません。</li> <li>・分別・環境への意識向上について引き続き課題があります。</li> <li>・コロナ禍にあってもごみ回収を継続できたことは評価できます。</li> </ul>
<p>今後の政策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的に取り組むべき施策など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が増加傾向にあることで排出されるごみの総量は増えることから、区民一人当たりのごみ量を施策の指標とし、進捗管理する必要があります。</li> <li>・分別意識向上に向けた啓発の検討・強化が必要です。</li> <li>・観光客の回復で懸念される民泊施設からのごみ排出・回収については、ごみ出しマナーの徹底などの周知が必要です。</li> <li>・蓄電池等の回収について、火災等の恐れがあることから、行政としても廃棄方法の更なる周知が必要です。</li> </ul>

### ※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外



成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

## 2 施策評価

評価	B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	資源回収量の中間目標値を達成する見込みは低い状況です。
達成状況の要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の有効性が高かった点</li> <li>取組の有効性が低かった点</li> <li>外部要因の影響を受けた点など</li> </ul> <p>拠点回収場所を倍増した古着の回収量が1.5倍、新たに実施した陶磁器・ガラスのピックアップでは約1tの資源を新たに不燃ごみから回収しました。一方で、資源回収量は排出されるごみ量自体に比例して増減する傾向があり、新型コロナウイルス感染症による社会活動の縮小などによりごみ量は大きく減少しているほか、デジタル化に伴う雑誌（古紙）の需要低下など、複数の社会的要因も影響して資源回収量は中間目標値を下回っています。</p>
課題と今後の方向性	令和4年度に実施した港区ごみ排出実態調査では、可燃ごみにはプラスチック類が17%含まれており、今後もプラスチックの分別についての啓発を継続します。令和3年度から順次、様々な取組を開始しましたが、保管場所や収集体制に限りがあることから回収量の増加には限界があります。今後は、これらの課題への対応を検討し、集積所における新たな資源品目の回収を検討します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。

B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。

C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。

D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。

E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。



成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						


a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

## 2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	・ 施策の評価は、成果指標①を達成する見込みのためAとしました。
達成状況の要因 ・ 取組の有効性が高かった点 ・ 取組の有効性が低かった点 ・ 外部要因の影響を受けた点 など	・ すべての事業用大規模建築物への再利用計画書の提出義務付け、前年度のアンケートを参考としたごみ減量セミナーの実施など、様々な施策を展開しました。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響によるテレワークの推進等により事業系廃棄物の排出量が削減されました。
課題と今後の方向性	これまでの推移により中間目標値を達成できる見込みですが、ごみ量は今後増加する可能性があります。ごみ減量アドバイザーを同行した立入検査の実施、廃棄物管理責任者講習のオンライン化・定期的な受講に向けた働きかけ等様々な施策を推進するほか、効果的な新たな取組について検討します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。  
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。  
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。  
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。  
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

# 施策評価シート

政策No	6	政策名	持続可能な循環型の都心づくりを進める
施策No	3	施策名	安全・安心・効率的な廃棄物処理の実践
目標・期待する成果	区は、繁華街での早朝収集や高齢者等世帯への戸別訪問収集など、質の高い収集サービスを提供するとともに、自然災害や感染症など、いかなる状況においても、区民生活を支える廃棄物処理を実践し、清潔で快適な生活環境を保全していくことをめざします。		
SDGsのゴールとの関係			
施策担当課	みなとリサイクル清掃事務所		関係課
担当者名	引間	内線	3911

## 1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
区収集ごみ量（管路ごみ含む。）	53,939 t	52,674 t	52,064 t	51,200 t	48,400 t	44,300 t
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	緊急事態宣言期間及びまん延防止等重点措置期間中、戸別訪問収集の新規面談は休止しましたが、通常の資源回収及びごみ収集は、感染防止対策を講じながら実施しました。また、災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するため、災害廃棄物処理基本方針を策定しました。新たに陶磁器・ガラス類の拠点回収を開始するとともに、古着の拠点回収場所を増設しました。		今後も継続して質の高い収集サービスを提供するとともに、自然災害や感染症の発生時においても清掃事業を適切に実施するための体制整備を継続します。加えて、区収集ごみ量については、分別の徹底の啓発により、区収集ごみ量は減少を見込んでいますが、更なる削減の促進に向けて継続して取り組んでいきます。		
令和4年度	b	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により収集体制がひっ迫したため、一部業務の休止・縮小を余儀なくされましたが、通常の資源回収及びごみ収集は休むことなく実施しました。また、区収集ごみ量の減量を図るため、陶磁器・ガラスのピックアップ回収を新たに開始しました。更に、プラスチック分別徹底を啓発するための収集車へのラッピングや集積所への看板設置を実施しました。		今後も継続して質の高い収集サービスを提供するとともに、自然災害や感染症の発生時においても清掃事業を適切に実施するための体制整備を継続します。加えて、区収集ごみ量については、リユース・リサイクルを更に推進していくため、引き続き分別を促す啓発に取り組んでいきます。		
令和5年度	c	清掃事業の安定かつ継続的な実施を確保するため、熱中症対策として、ファン付き作業服の導入を進めるなど、収集職員の体調管理及び衛生管理に努めます。また、資源のピックアップ回収や拠点回収の実施と環境啓発イベントを通じた分別徹底の更なる意識向上により、区収集ごみの減少に取り組んでいきます。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

## 2 施策評価

評価	E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。
施策の達成状況	清掃事務所内において新型コロナウイルス感染症の感染者が増加したことにより、一時は一部業務の休止・縮小を余儀なくされる事態に陥りましたが、資源・ごみの収集は休止することなく、実施することができました。一方で、成果指標である区収集ごみ量については、中間目標値及び計画目標値ともに達成可能性が低いと見込んでいるため、施策の評価はEとしています。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	区内における大規模集合住宅の建設等による人口増加や世帯構成の変化といった外的要因により、今後ごみ収集量が増加が見込まれることから、目標値の達成可能性が低いと見込んでいます。
課題と今後の方向性	区収集ごみ量を削減するため、令和3年度から順次、様々な取組を開始しましたが、保管場所や収集体制に限りがあることから回収量の増加には限界があります。令和4年度に実施したごみ排出実態調査の結果を踏まえ、可燃ごみ・不燃ごみに混入する資源物を適切に排出していただけるよう、区民の分別意識の更なる向上を図っていきます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。  
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。  
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。  
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。  
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。